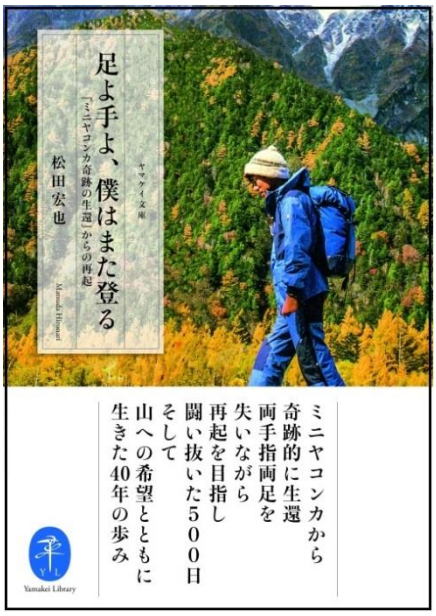
『足よ手よ、僕はまた登る』（松田宏也著）

～「ミニャコンカ奇跡の生還」からの再起～



世の中には奇特な人も居るものだ。最近は寄る年波が大波になってきて大凡（おおよそ）“感動”などという世界には縁がなくなってしまったが、この本には“感動した！”。

本書は、これ以上の塗炭の苦しみは無いという地獄から這い戻った心身に鞭打って苦労を重ねた挙句、再び山の世界に舞い戻った御仁が紡いだ感動の手記である。重度身体障害者となった人がちゃんと独りで世の中を渡っていけるまでに社会復帰し、更に不自由な体で趣味の登山まで復活させたその気力と努力にはただただ畏れ入るばかりである。それも中途半端な程度ではなく、社会生活の方では大会社の役員まで勤め、山の方でも再びヒマラヤの高峰を目指すという余人にはチョット真似ができない芸当であることもさりながら、闘病と両手足が無い身体でのリハビリという過酷な試練を暗いトーンの文章ではなく明るくサラリとした筆致で綴られているのであるから、これはタダモノではなかろう。

さて、昨年 2021 年 3 月発行のジャーナル第 66 号で同じ著者の『ミニャコンカ奇跡の生還』を紹介した。そちらの本は、中国四川省ミニャコンカ 7556m での壮絶な遭難事故から飲まず食わずの 19 日間の苛烈な彷徨の末、偶々冬虫夏草採りの地元住民に発見されて奇跡的に生還した著者の、遭難から現地病院での両手指・両膝下切断、帰国してからのリハビリまでの壮絶な体験を記した手記であるが、その著者は血が滲むようなリハビリに励んで再び会社員として社会生活にも復帰され、また山の方でも現役に再起されて両足とも義足でヒマラヤ・シシャパンマに挑戦され、また最近では日本山岳会創立 120 周年記念事業の 40 日間に及ぶグレート・ヒマラヤ・トラバースにも参加されたことは前回の図書紹介で紹介したとうりである。

その中でも触れたが、生還以降の 500 日間に及ぶリハビリと山への再起を目指した同じ著者の著書『足よ手よ、僕はまた登る』は 40 年近く前に出版されて以来絶版になっていたのでちょっと手に取って読み返すという訳に行かなかったが、その後の 40 年間の歩みも加筆されてこの度ヤマケイ文庫から増補改訂版が発行されたのを機に、前回に続けて改めて紹介したい。前著を未だお読みになっていない方は続けて本書も一緒にお読みになれば一層興味深いのではあるまいか。

名著と言われる本は別として、40 年も前に発行された普通の、しかも登山と言うどちらかと言えば狭い世界での本が半世紀を経て復刻されるということは稀有なことであろう。近年のコロナ禍で生活のスタイルや考え方の変更を余儀なくされて縮ぢ籠っている普通の人々がやはりどこかで希望ある人生への出口を求めている顕れではなかろうか。

さて、腰巻紹介が長くなってしまった。皆さんもこの駄文に飽き飽きされた頃であろうから、後は読まれてからのお楽しみとして、目次の項建だけを以下に紹介して筆を擱くことにしたい。

「１．僕は帰ってきた」、「２．ベッドの中で」、「３．こんなに元気になったよ」、「４．また足を切る」、「５．僕は歩けた」、「６．リハビリの仲間たち」、「７．車椅子よさようなら」、「８．母との生活」、「９．サラリーマンに戻る日」、「１０．再び山へ」、「１１．答礼の旅」、「１２．山への希望とともに」。

2022 年 7 月　山と渓谷社刊（ヤマケイ文庫）　本体価格：1,000 円　　（酎　2022 年 7 月 20 日　記）